

COLUMN

仕事について考える

連載 55

札幌大谷大学社会学部 教授 平岡祥孝

秋冷の候ともなれば、夕暮れ時も早くなりました。いつものことながら、私の「人生の黄昏」と重ね合わせてします。

仕事人生でほぼ先が見えた時、これまで未経験の新しい仕事を担わなければならぬとしたら、人如何に対応するでしょうか。手抜き三昧から全力投球まで千差万別も、その人自身の仕事観が色濃く投影されるのではないでしようか。老いの支度をする前に、「もう一仕事してやろう」と腹をくくることが出来るならば、挑戦心と克己心が湧いてきます。

平成21年に札幌大谷学園に採用されて、新学部（社会学部）の広報や学生募集のために、札幌圏の高校のみならず地方の高校も対象に高校訪問に取り組み始め、早7年目を迎えました。学生の就職支援のための企業訪問は大学教員1年目の昭和60年から継続しているものの、重点的な高校訪問は、私はバスの便数が少ないので、自動車運転をしない私にとっては過



【ひらおか・よしゆき】札幌大谷大学社会学部教授。英国の酪農経営ならびに牛乳・乳製品の流通や消費を研究分野としている。女子学生の就職支援やインターンシップ事業に携わってきた経験から、男女共同参画、ワーク・ライフ・バランス、仕事論、生涯教育などのテーマを中心に、講演やディアでも活躍。

入試広報では、進路指導部に訪問することが一般的です。実績や伝統がある大学なら、ルートセーブルス然り。通り一遍の売り込みで十分事足りるでしょう。また、訪問高校数を増やすだけならば、駄目で元々の飛び込み営業もあり、でしきうね。しかしながら、新参者のは私は発想を転換して、可能な限り校長先生、教頭先生にもご挨拶させていただくようにしています。相手都合に合わせる必要があるため、当然のことながら訪問予約は不可欠。

もちろん「即成果あり」とはいきません。けれども、校長先生や教頭先生からは、学校課題や教員集団を含めた高校全体の状況、そして地元の教育事情を教えていただけます。また、授業見学の機会を頂戴することもあります。さらに話が弾めば、前任校や他校の様子を話していくことや、訪問すべき高校や先生を紹介していくだけことがあります。そして何

も、何ら珍しくありません。初老の身としては辛いですが、道内は無人駅から長々歩くことや、停留所から息が切れる坂道を登ることも、何ら珍しくありません。初老の身としては辛いですが、道内は公共交通機関に詳しくなり、路線バスやローカル線の時刻表収集が趣味となりました。

私も、お役に立ちそうな情報の提供、あるいは出張講義や講話の提案をさせていただきます。言行一致で知名度・信頼度を上げていけば、結果は後からついてくる。急がば回れ。道すがら降る雨が止み、たまに晴れ間が出るならば、それで良、としましようね。

先生自ら駅や停留所まで送り迎えをしてくださったり、校長室で昼食あるいはコーヒー・デザートをご馳走になつたりすることもあります。感謝・感動数知れず。人間的に尊敬できる先生とは、異動後や退職後もご交説いただいておしば。感謝・感動数知れず。人間的に尊敬できる先生とは、異動後や退職後もご交説いただいてあります。金持ちよりも人持ちはあります。高校訪問は目先の広報や学生確保もさることながら、教育に携わる者同士の信頼関係構築が何よりも重要でしよう。いつもながらの独断と偏見ですが、いわゆる営業とは縁と情。

ARTS



ち
び
っ
こ
*
ギ
マ
ラ
リ
ー

しらかは保育園
ゆめくみのみんな
トリック・オア・トリート
ハロウィンに向けて、
あはけとかぼちゃを
制作しました！
初めてのいを使って貼り付け、
いろいろ表情の作品が
出来ました☆

町長室から

初
冠
雪

というニュース
が早くも流れま
した。

6月から取り組んでいたクーリビズも終わり山々の紅葉を見ていると秋の深まりを感じます。今年の異常気象は矢継ぎ早にやってきて日本列島に近づいてくる台風にも現れています。

更に、爆弾低気圧と盛漁期を迎えている秋鮭漁は網の被害と共に、時化が続いて網を設置する暇がありません。

その隙間を縫つて行われた「第40回ふるさとのみのり祭り」という浦幌町の最大のイベントも天候の関係で心配されましたが、結果的には行事の最中に雨が降ることなく、比較的暖かい気候の中で、洋野町の水上町長にもお越しいただき多くの来場者にも楽しんできました。このイベントにご協力いただき多くの町民の皆さんに感謝とお礼を申し上げたいと思います。「下浦幌水道利用組合」は昭和

27年に設立し地域の飲料水、営農用水を供給していましたが、簡易水道の普及により、其の役割を終えたため解散総会が挙行されました。

43年の長年にわたり、地域に

おける安定した水道水の供給のために献身的なご努力を重ねてこられましたが、この間、自然環境の変化による取水量の低下や農業経営形態の変化による使用水量の増加のほか、施設の老

朽化、地震による幾多の災害など安定した水道水の確保に窮じた事も度々ありました。単独営農用水下浦幌地区の完工に伴い、下浦幌地区を統合する運びになり、解散に至りました。

関係者の献身的な努力に敬意を表して挨拶させていただきま

打撃が大きい農業分野の対策に「TPP総合対策本部」を全閣僚で組織する考えのようですが、関税の引き下げ、撤廃は変わりなく続くわけで、一時的な補助制度で取り繕う事はできませんし、財源が続くわけがない

根本的な政策で影響を回避できるのかが問われます。

北海道の一次産業や安心安全な生活を守る事ができるかで道民の最大の心配事でありましたTPP交渉はアメリカのアトラントで交渉日程を何度も延長する中で10月5日に大筋合意となりました。

JR本社から新幹線の開業に向けて赤字体質改善のために路線の見直しをせざるを得ず、利

用実績のない道内の駅の廃止については上厚内駅が5年間の利用実績が「ゼロ」であるが今回は廃止対象になつていらない事などを説明がありました。

浦幌町としてはJRの経営が厳しい事は十分理解しているが、公共交通の使命を担っている事

から単に経済的な理由で道民の足を奪う事は許されない事であり、慎重に検討していただきました。

地方自治体の活動を顕彰する「マニユフェスト大賞」という制度がありますが、このたび全国から全体で3000件弱の応募があり、議会の部で浦幌町議会が「成果賞」として選ばれました。

議会の取り組みが評価されたという事で浦幌町議会には敬意を表したいと思います。

これからは国会の批准という段階になりますが、本当に北海道の農業を守られるのか、国の根幹である食料自給率を維持できるのかなど厳しい視線で見守る必要があります。

浦幌町長 水澤一廣